

2017年度 取締役会の実効性評価の概要と今後の対応について

当社は、取締役会の実効性と透明性を高め、企業価値を向上させることを目的として、2017年度の実効性評価（第三者評価）を実施いたしました。その概要と今後の対応についてお知らせいたします。

1. 対象者 : 2018年3月末日時点で現任の全取締役（9名）および全監査役（4名）

2. 評価の方法について

- ✓ 評価者として外部コンサルタント（以下、外部評価者）を起用し、対象者に対する質問票への回答および個別インタビューを実施しました。
- ✓ 質問票の項目については、2016年度の実効性評価（自己評価）の質問票と評価・分析結果を踏まえ、外部評価者が社長、担当役員（※1）、社外取締役1名にインタビューを行い決定しました。（※2）
- ✓ 上記により決定した質問票を対象者に配布し、全員から回答を得ました。
- ✓ 質問票に対する回答結果を踏まえ、外部評価者が対象者全員に個別インタビューを実施しました。
- ✓ 外部評価者が分析・評価結果をまとめ、当社取締役会に報告しました。
- ✓ 報告の内容を取締役会で検証し、今後の対応について下記4.に記載の通り方向性を決定しました。

3. 分析・評価結果の概要について

外部評価者による分析・評価の結果、当社取締役会の運営状況や社外取締役への支援体制は全般的に高く評価されており、当社取締役会が概ね適切に機能し、実効性が確保されていることを確認しました。

昨年度に課題として認識された中長期的な課題に対する議論の充実に向けては、十分な議論の時間が確保され一層の議論に取り組んでいることが確認されました。また社外取締役と監査役の十分なコミュニケーションについても、情報共有、意見交換の場を増やす取り組みがなされていることが確認されました。

一方で、外部評価者による分析を踏まえて、当社取締役会で検証・評価した結果、今後、検討すべき下記の課題を認識しました。

- ・ リスクを認識し管理する仕組みを継続して検討すべきこと。
- ・ サクセッションプランについては、経営トップ育成を念頭においた長期人材育成の

仕組みを構築すること。

- ・ 社外取締役と監査役のコミュニケーションについては、昨年度より改善しているが、今後、さらに機会を増やす方向にあること。

4. 今後の対応について

上記分析・評価結果により認識された課題に対して、今後、以下の通り取り組むことで、さらに当社取締役会の実効性を高めるよう努めてまいります。

- グローバル経営を支える重要なインフラと考えられるリスク管理体制（海外子会社体制も含む）について継続して検討してまいります。
- サクセッションプランについては、今回の評価結果を踏まえて、主に指名・報酬委員会において検討を行い、議論を深めてまいります。
- 昨年度に課題として認識された「多様性の推進」「社外取締役と監査役の十分なコミュニケーション」については、今後も継続的に取り組みます。
- 経営・事業のステージの変化に伴い、取締役会の議論の内容も変化すると考えられるため、取締役会の実効性に関する評価を継続的に実施してまいります。

なお、2018年度は、取締役会評価（自己評価）の実施を予定しております。

以上

(※1) 財務経理・IR担当取締役

(※2)

取締役会評価の質問票の大項目

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1. 取締役会の運営状況 | 6. 社外取締役に対する支援体制 |
| 2. 取締役会の機能・役割 | 7. 監査役の役割・監査役に対する期待 |
| 3. 取締役会の構成 | 8. 投資家・株主との関係 |
| 4. 指名・報酬委員会の構成と役割 | 9. ガバナンス体制・取締役会の実効性全般 |
| 5. 指名・報酬委員会の運営状況 | 10. 自己評価 |